



KSKQ

萌風香

2018年度 秋号

誰もが生き活きと
自分らしく暮らせる
心豊かな社会を
創造します。

社会福祉法人萌 広報紙 NO.62 2018.10.31 編集人 社会福祉法人萌 定価 150円

〒630-0256 奈良県生駒市本町7-14 ブルームビル2階 ひだまり内 TEL 0743-85-4196

災害から得た教訓・これからの取り組み

今年は地震による被害や豪雨、台風による風水害が全国各地で頻発しています。今年6月の大阪北部地震では交通機関運休による移動手段の断絶、通信会社の電話回線制限(緊急通報確保のため)による電話不通など、施設運営や利用者、職員の状況把握に支障がでました。また大阪北部地震をきっかけに多くの企業が災害リスクへの対応、交通機関では早期の計画運休対応がスタンダードになってきています。

その状況の中、萌としても防災対策、災害時対応を具体的に検討し、

- ① 気象警報発令による施設開所基準の作成
- ② 災害時の管理職間の連絡ツールの確保
- ③ 災害時安否確認システムの導入

について取り組みました。今後、災害が起きて早期に支援体制を築き、

事業運営を継続していくための災害時対応マニュアル、事業継続計画(BCP)を早急に策定していきます。

(総務部部長 出口裕生)



「元気にはたらくために」非常勤職員研修会を実施

萌で働く職員187人のうち約56%を占める非常勤職員を対象とした研修会を行いました。

法人として初めての試みで大和郡山、田原本の2会場で実施。福祉現場における不安や悩みの軽減につなげることが目的です。

大和郡山会場の参加者は34人。講師は永石淳哉西和エリア部長。

「精神障害者の特徴と接し方について」と題し、事例を交えながら精神疾患やそれに伴う障害、特に認知機能障害の説明。関わる姿勢として「待つ」「見守る」「決めつけない」の3つが重要であること。「自分を助ける」という考え方の紹介などがありました。



私たちの仕事は苦勞と向き合っていく仕事。だからこそ①自分自身を客観的に見る機会を作る②悩みや苦勞を話せる仲間を作る③悩みの軽減に結びつける方法や情報・研修や検討の場を作ることが「自分自身を助ける考え方」につながり、その中でも「仲間の必要性」を参加者に熱く語りかけました。

その後の質疑応答では「調子の悪い時にどう接したらいいか」「することがいっぱいあってゆっくり話せない」「情報共有の必要性」など現場ならではの発言が出ました。

参加者からは「考え方・視点の持ち方が学べてよかった」「具体的な話しをもっと聞きたい」「こういう研修会をもっとすべき」といった感想があり、今後の研修会の質の向上も必要です。

四徒
季然

社会福祉法人萌
理事長 吉川郁子

日本各地で災害が続いています。被災された皆様にご挨拶に謹んでお見舞いを申し上げます。

災害時に命を守り施設を安心で安全なものしておくために、日頃から備えてきたつもりでしたが、今回その「備え」は実効性のないものだったことに気づき、猛省しています。備えの不十分さと同じく身に沁みわたるのが心細さです。昼夜を問わず警戒情報を知らせるメール音が鳴り響き、台風が過ぎ去るのをじっと待ち不安な時を過ごしました。

テレビから情報を得るだけでなく、「怖いね」「どうしようか」と誰かに話し、相談できることが心の安定につながるのだと実感しました。

病気や障害があればなおのことでしょう。地域で暮らす人たちの「心の支え」として役に立つ法人でありたいと思えました。